

Contents

●自然への気づきということ

理事 金子 与止男

●里山の昆虫

●活動紹介

●自然保護助成基金助成先のご紹介

- ・新潟県生態研究会
- ・石澤佳代氏

●8・9月のプログラムのご案内



夏の田園風景

自然への気づきとつづらいつと

理事 **金子 与止男**

今から60年も前のこと、私が小学生だったときに、クラスに鳥の名前をつけて呼ぶことがあった。本当は何年何組なのだが、愛称として、つぐみ組とかこまどり組といった具合に鳥の名前も使っていた。当時、ツグミという名前は知っていたが、実際にその鳥を見たことはなかった。

その後、中学生になって、ある冬の日、自宅の前の稲架木用に植栽されているハンノキにスズメよりも大きい茶色っぽい鳥が止まっていた。双眼鏡を使ってよく観察し、図鑑と照らし合わせたところ、ツグミであることが判明した。

すると翌日から変わったことが起きたのである。突然、身の周りにツグミがふえだしたのだ。家の前にも、学校への行き帰りにも。なんのことはない。前日まで、ツグミという鳥を認識していなかっただけのことである。認識していなければ、存在しない。ツグミ自身が突然ふえたわけではない。自分の頭の中でツグミがふえたのである。

3年前の9月に越路地区在住で動物好きの西沢一郎君から、変わった植物を見つけた、ミズワラビと思うがどうだろうかと写真が送られてきた。それまで彼も見ることがなかったというのだ。ミズワラビは田んぼなど湿ったところに生える胞子で増えるシダ植物である。

じつは、30年ほど前に渡辺茂君が越路町内で、近年では財団事務局の西山拓君が越路原の田んぼで発見している。私は中学時代にシダ植物の採集をしていたり、家の田んぼ仕事を手伝ったりで、ミズワラビが好んで生える環境に馴れ親しんでいた。しかし、ミズワラビを見たことはなかった。



ツグミ

そこで、西沢君から写真が送られてきた後、越路地区の刈り取りの終わった田んぼや放棄田を見てまわることにした。すると、ミズワラビがあちこちに生えているではないか。袴沢、東谷、岩田、勝保河内など。

ここで、疑問が起こる。私が中学生のころ、ミズワラビは本当に越路にはなかったのだろうか。単に、稲刈りの終わった田んぼには行く必要がなかった、行ったとしても田んぼ周りのシダ植物はせいぜいイヌスギナ程度で、ミズワラビなど生育していないと決めつけていたのかもしれない。ツグミと同じように気がつかなかったかもしれない。

当時、ミズワラビは分布していなかったが、その後、分布域を拡大したという可能性もある。実際、ミズワラビの群落が、県内各地で発見される報告事例が増えているようである。

これまで存在しないと信じていたものが、ある時点で認識したことにより、あっ、ここにもある、あそこにもある、という場面を経験した人も多いかと思う。自然への気づきがあることにより、視野が広がったのである。

なお、従来のミズワラビは近年2種に分けられ、沖縄産がミズワラビ、

本土産がヒメミズワラビとされている。



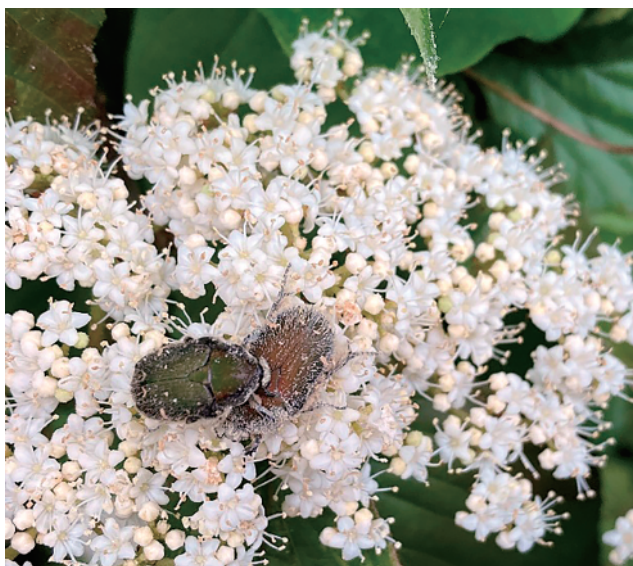
ミズワラビ (拡大画像)



ミズワラビ

里山の昆虫

私たちは、月に1回環境省が主導するモニタリングサイト1000の植物調査をしています。開花・結実した植物を観察していると、多くの昆虫たちに出会えます。5月の調査で出会った昆虫をご紹介します。



コアオハナムグリ
ミヤマガズミの花粉をむさぼるように食べていました。体は花粉まみれです。



ムカシヤンマ
何分間も歩く調査員の肩にとまっていました。オニヤンマより一回り小型です。

活動紹介

春に開催した「春の里山に親しむ会」、「ツリークライミング体験」の様子をご紹介します。

1. 春の里山に親しむ会 (2023.4.29)

当会の金子理事を講師に、塚野山の「越路の森」で開催しました。今年は季節の移り変わりが早いようでしたが、ギフチョウにも出会えました。



清々しい春の里山を歩きました



シュンラン（春蘭）名の通り春の花です



花の形が船の碇に似るトキワイカリソウ



春の女神と呼ばれるギフチョウ

2. ツリークライミング体験 (2023.5.3)

「飛んでいるみたいで楽しかった」、「最近感じることがない自然が気持ちよかった」、「木の上からの景色がきれいでありたくなかった」

皆さんも非日常の体験をしてみませんか。



助成先のご紹介

上越市三和区のオニバス 復活の取組み

新潟県生態研究会
会長 藤本孝昭

新潟県生態研究会では、かつて上越市三和区にある谷内池で生育していたオニバス（新潟県絶滅危惧Ⅱ類）について深い興味と関心をもって調査を行ってきた。令和3年秋、三和の自然と地域を育む会及び三和中学校と連携してオニバスの復活を目指す取組を開始した。具体的には、新潟大学の志賀隆先生から、「池を浚渫するとオニバスの埋土種子が攪拌されて発芽する可能性がある」というご指導をいただきこの取組を進めることにした。

令和4年5月、三和中学校3年生を対象にオニバスの生態に関わる講演会を、続いて谷内池及びその周辺のフロラ調査を実施した。その後、上越市地域活動支援事業の助成を受け、谷内池の数カ所を浚渫した。6月21日、28日、7月1日の計3回、三和中学校3年生の総合的な学習の時間における、谷内池から埋土種子を採集する活動を支援した。その結果、採集できた1,110個の種子のうち100個が中身の詰まった種子で、発芽の期待が膨らんだ。6月

28日に、採集した種子の1つが発芽したことを確認することができた。

そこで、三和中学校のプール脇にある約4m四方の洗体槽に水を張り、たらいに土と牛糞堆肥を入れたものを水中に沈め、そこに発芽したオニバスを定植して様子を観察することにした。その後、7月12日にオニバスの特徴である鏝型をした浮葉が出現した。さらに観察を続けると、8月1日にはトゲのある浮葉が出現し、8月16日には水中で蕾が確認できるまで生長した。あとは毎日のように三和中学校に通い、その生長の過程を記録していった。その結果9月4日にトゲのある萼に囲まれ青紫色のオニバスの開放花を見ることができた。時を同じくして、8月20日には谷内池の浚渫箇所付近で鏝型の浮葉を数カ所で確認できた。しかし、残念ながら本葉にまで発展することができなかつた。一方、プール洗体槽のオニバスについては、次々と開放花・閉鎖花が咲き、種子が形成される過程を継続的に観察することができた。最終的には10個の花から、538個の種子を回収することができた。回収した種子はそれぞれの質量、長径・短径を計測後、花ごとに播種シートに分けて入れ、水中に沈めて、三和中学校の理科室前廊

下にて保管した。

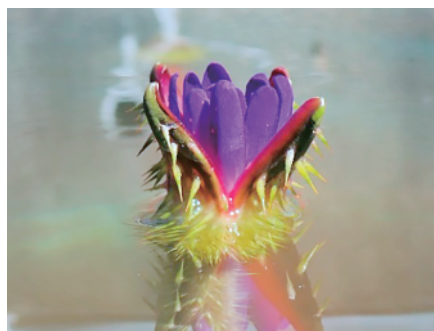
令和5年4月4日、前年6月に生徒が採集した種子の1つの発芽孔から発芽が確認できた。それをカップ麺の容器に用土を入れ、水を張ったバケツに沈めて移植した。それが、現在4枚の鏝型の浮葉が展開するまでに生長している。また、昨年回収した538個の種子のうち30数個が発芽しはじめ、そのうち7個からは鏝型の浮葉も出現した。それぞれバケツに移植し、プール洗体槽に沈め、大きく生長する様子を観察する予定である。また、昨年浚渫した谷内池の数カ所でも鏝型の浮葉が複数出現していることが確認できた。この活動に関わった一同、自然な状態での開花に大きな期待を寄せている今日この頃である。



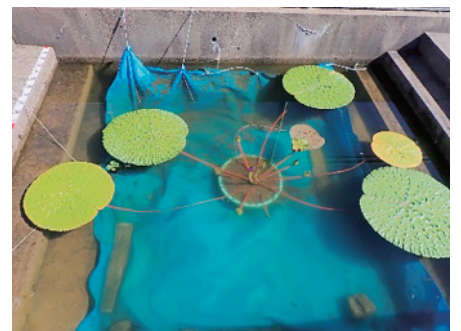
種子採集 (2022.6.21)



移植 (2023.5.22)



オニバスの花 (2022.9.4)



オニバス開花 (2022.9.4)

助成先のご紹介

理科部員の様子と菩提寺山のヒゴスミレの保全

新潟県立新津高等学校
石澤佳代

新津高校へ赴任した当初は3名しかいなかった理科部員が、現在では3年生5名、2年生7名のところ今年には10名の1年生が入部し計22名となった。人数の取り合いとなっている運動部には大変申し訳ない思いである。毎日やってくる生徒、時々顔を見せる生徒、学校外へのフィールドワークになると参加する生徒などさまざまではあるが、放課後や休日のひとときを楽しんでいるようである。これまでメダカ、ドジョウ、アカハライモリを飼育してきたが、今年は、研究したい！という熱意と共にカタツムリ、蚕、トカゲ、カメが生物教室に持ち込まれた。

さて、今回、助成を頂いた活動「ヒゴスミレの保全」について紹介したい。新潟県におけるヒゴスミレは新潟市西蒲区巻町角田山と秋葉区大沢菩提寺山に分布が報告されていたが、現在は、秋葉丘陵周辺の分布だけとなった。すでに、新潟県から発行されている「レットデータブックにいがた」には絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定され、その要因には、山

野草の愛好家により採取されているおそれと森林の改変が考えられている。そこで、県内唯一の生息地である秋葉丘陵でのヒゴスミレの保全を目的として、2016年度から、新津高校理科部の生徒たちと詳細に調査を行ってきた。2016年～2017年は、菩提寺山に生息するヒゴスミレの個体数の計測と環境データの収集を行い、個体数は10個前後であることを確認した。



2018年～2019年に掛けては、菩提寺山の隣にある高立山でもヒゴスミレが生育していることを登山客から教えてもらったことから、1～2週間に1回の頻度で高立山に登り、生育状況を調査した。その結果、多くの個体を確認できたが、いずれも草刈りを行っている範囲のみ生息していることが分かった。そ

ここで、ヒゴスミレに対する草刈りの影響を検討した結果、草刈りが行われていることで良好な環境となり、個体が維持されていることを確認した。一方、2019年の段階でも、菩提寺山の状況は改善されなかったこと、新型コロナウイルスの感染予防のため学校外での部活動が制限されたこともあり、2020年には、学校内で行える個体の増殖実験を行った。これまでも種子による繁殖を試みたが、ほとんど成功せず、発芽率は低かった。そこで、種子以外での増殖方法を調べたところ、「根伏せ」や「葉挿し」という方法があることを知った。草刈りでダメージを受けたのにもかかわらず、2ヶ月後には、果実形成を行う個体も見られたこともあり、高立山の個体を使い半信半疑で試みた。結果、予想以上に短期間で多く個体を増殖することができた。2021年には、菩提寺山の個体を数個体、持ち帰り大切に増殖させ、2022年には、人工増殖させたものを菩提寺山の生息地近くへ移植した。結果、今年（2023年）の4月には、そのうちの1株が開花をつけ、その後も順調に成長していることから、この移植場所でも個体の増加が期待される。また、菩提寺山の個体数減少の一つの要因

に杉の小枝の堆積により地表が覆われ、実生が育ちにくくなっていることが分かった。今後は、年に1回程度、杉の小枝の除去や多くの登山客にヒゴスミレの見守りをお願いするためのしかけ作りを考えている。



8・9月のプログラムのご案内

ご家族向け自然体験プログラム「昆虫観察会」

専門家の指導をいただきながら、楽しく草地や水辺の昆虫を観察します。

日 時 8月26日（土）9：00～12：00／集合：巴ヶ丘自然公園（長岡市来迎寺甲816）
 講 師 鈴木誠治氏（昆虫はかせネットワーク）
 募 集 お子様とご家族20名
 参加費 ￥300（当会会員￥200）
 申込締切 8月23日（水）

大人向け座学プログラム「里山自然教室」

専門家から植物、動物についてお話しいただき、自然への理解を深める講座です。

①「秋の草花」9月2日（土）10：30～12：00

講 師 櫻井幸枝氏（長岡市立科学博物館学芸員）

②「里山・里川の生きもの」9月2日（土）13：00～14：30

講 師 井上信夫氏（生物多様性保全ネットワーク新潟）

会 場 こしじ水と緑の会 緑の家（長岡市朝日595-5）

募 集 自然に興味のある方15名（中学生以上）

参加費 ￥300（当会会員￥200）

申込締切 8月30日（水）

お 申 込 事務局まで参加される方のお名前、住所、電話番号をお知らせください。後日、事前のご案内をお送りいたします。

TEL・FAX：0258-92-5238（平日9：00～17：00）メール：info@koshiji-nf.org

- ・発熱や体調不良がある場合は参加をご遠慮ください。
- ・天候の状況などにより中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

編集後記

5月末、守門岳に登りました。3月には4m位あった雪はすっかりなくなり、東洋一と言われる大雪庇の名残が大岳の山頂付近に残っている程度でした。あのたくさんの雪はいったいどこへ行ったのだろうか…。雪どけ水はブナ林のふかふかな土にしみこみ地下水となり、ゆっくり川に流れ込みます。そして、その水は平野の水田を潤します。新潟のおいしいお米は、山に積もる雪の恵みと言えそうです。（拓）

ご寄附ありがとうございました

（2023年3月1日～2023年5月31日、敬称略・順不同）

平澤新太郎、朝日酒造（株）

会員動向（2023年5月31日現在）

会員449名（個人388、法人61）

引き続き、ご支援のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人

こしじ水と緑の会



本誌は再生紙を使用しています
 植物油インキを使用しています

〒949-5412 新潟県長岡市朝日595番地5 電話・FAX 0258-92-5238
 HP <https://www.koshiji-nf.org> E-mail info@koshiji-nf.org

